

2010年度 第2四半期 決算説明会
主な質疑応答

Q1: 今回の第2四半期累計(上期)決算は会社内の計画に対してどのくらい上まわったのでしょうか。また、下期の見通しについても教えてください。

A1: 会社内では、上期で構造改革費用前の営業利益で約600億円程度を計画していましたが、実績は945億円と上回って着地しました。下期については、為替の円高、原材料の高騰などの事業環境の変化が業績に与えるインパクトをしっかりと見極めたいと考えており、年間業績の予想値を変更しておりませんが、年間トータルして当初計画の構造改革費用前営業利益1,450億円を上回る利益は必ず達成できると考えています。

Q2: フラットパネルディスプレイ材料事業の下期の見通しについて教えてください。

A2: パネルの生産調整が引き続き、第3四半期はその影響を受けるものと考えておりますが、12月以降の回復を見込んでいます。第4四半期は需要期に入りますので、順調に売上が回復すると見えています。

Q3: デジタルカメラの単価の動向、損益の状況について教えてください。

A3: 単価は市場全体と同様に15~20%程度落ちています。損益は、コスト改善が進んできているものの、予想外に第2四半期に急激な円高が進んだため、事業営業利益ベースでは黒字を確保したものの、本社費等配賦後の営業利益は若干の赤字となりました。年間では営業利益の黒字化を達成していきます。

Q4: 今回自社株買いを発表されましたが、その決断に至った背景を教えてください。

A4: 不透明感はありますが、現在公表している年間の予想業績が達成可能と判断したことや、キャッシュフローの見込等をふまえ、このタイミングで自社株買いを決断しました。

Q5: 新興国向けの売上ではどの事業・製品が伸びているのでしょうか。

A5: 資料の16ページに中国及びアジア等の売上を開示しています。新興国向けの拡販のための製品・経費・スタッフを投入しており、デジタルカメラ・メディカル・グラフィック・ドキュメントなどの分野で大きく売上を伸ばしています。今後も各国のGDPを上回る売上伸び率を目指していきたいと考えています。

以上